平成２４年３月１２日　第１０２号

学校だより　東雲（しののめ）

八戸市立東中学校
Tel　31-3170　31-3180
Fax　32-1130
http://hachinohe.ed.jp/higasi_j/

※ 東中学校の教育情報は、ホームページやブログでも公開しておりますので、是非ご覧ください。

◇◇ 共育９７ ◇◇　（「共育」：皆さんと「共に育む」の意味です。）

「文武両道」を貫き成長した１６９名の卒業生、おめでとう！

３月８日、約３００名のご来賓および保護者の方々の出席のもと、平成２３年度卒業証書授与式が行われました。

今年度は、１年生の「希望式」、２年生の「立志式」とも、これまでのものより数段進化した内容でしたが、その１・２年生を支え、引っ張ってくれた３年生だけあって、すべてにおいて「最高級の卒業式」を見せてくれました。ご来賓の皆様からも、「いいものを見せてもらった」「素晴らしい卒業式でしたね」と絶賛していただきました。

きょうは、校長式辞、布施礼子さんの送辞、木村光樹君の答辞のそれぞれ一部（抜粋したもの）を掲載いたしますので、卒業式の雰囲気を感じ取っていただければ幸いです。

（教頭：工藤聡）

式　辞

校長　戸来忠雄

春になると鮮やかに花を咲かせる草木は、しっかりと根を張り、厳しい冬の寒さを堪え忍んではじめて、美しい花を咲かせます。苦しいときでも、人として誠実に、課題に立ち向かっていくことが大事です。いつまでも続く試練や不幸はありません。どんな時でも、身近な楽しみや希望を持ち続けて、人生を歩んでいってほしいと願っています。

卒業生の皆さん、我が人生に誇りをもち、胸を張って歩んでください。はなむけに宮澤章二さんの詩を贈ります。

花は誰かのために咲くのではない／誰に見られなくても　いいではないか／花たちは皆　自分のためにひらく
花菖蒲のように鮮やかな花

柿の花のように地味で小さい花／誰かのために咲くのではないから／花たちは　自分で咲きたいように咲く
自分で咲きたいように咲くのは／自分の目的をちゃんと持っているからだ／それ故　ひたすら自分の力で咲く
たとえ雨に降られても

ひるまない／咲くべき時に　皆きちんと咲く／そのために　たくわえる力／花たちは自分の時刻を秘めている
（「誰にみられなくても」より）

一人一人の限りない前途を祝し、式辞といたします。

送　辞

在校生代表　布施礼子

「継続は力なり」という言葉がありますが、皆さんはまさにその言葉の通り、東中の良い伝統の継承と新たな伝統の創造のために尽力してくださいました。我々後輩も、その先輩方の後ろ姿をしっかりと追いかけ、先輩たちに負けないよう、一歩一歩進化していきます。先輩方が進む道はそれぞれ違いますが、時計台のもとで送った皆さんの３年間は、必ずこれから進む道で自信と勇気を与えてくれるはずです。私たちはこの東中学校から、先輩方の活躍を心から応援しています。先輩方の進む道に幸多きことを祈念し、感謝とお別れの言葉といたします。

答　辞

卒業生代表　木村光樹

僕たちは、先生方に心を育ててもらいました。だからこそ、どんなことにも全力で取り組み、そこにやりがいや楽しさを見つけることができました。３年間、楽しく過ごしてこられたのは、そのすべてを教えてくれた先生方と、ともに分けあった仲間たちのおかげです。３年間で手にしたこのつながりは、色あせることなくずっと残るでしょう。離れていても、このつながりがみんなを支えてくれることを信じています。

１・２年生のみなさん、僕たち３年生の姿は、みなさんの目に、どのようにうつっていたでしょうか。僕たちにとって、部活で共に戦い、励ましあい、行事では良いプレッシャーを与えてくれるみなさんも、大切なつながりの一つでした。２年生はこれから最上級生になり、１年生にはこれから先輩ができます。初めは、不安も、失敗もたくさんあるはずです。しかし、僕たちは、１・２年生のたくましい姿をすぐ側で見てきました。だからこそ、安心して卒業できます。みなさんは、みなさんにしかできないことを、精一杯頑張ってください。そうすれば、後から必ず結果がついてきます。

僕たちは今、たくさんの先生方や後輩たちに見守られています。たくさんの信頼できる人たちがいるから、僕たちは胸を張ってこの東中学校を巣立っていくことができます。今まで僕たちを育ててくださった保護者の皆様、僕たちを温かく見守ってくださった地域の皆様、皆様に支えられて、僕たちは卒業を迎えることができます。今まで本当にありがとうございました。

※ スペースの関係で、「式辞」「送辞」「答辞」の文字が大変小さくなったことをお詫びします。

平成23年度 八戸市立東中学校卒業証書授与式

磨いて人間力